



教育目標

- 1 言語力を高め、伝え合うことができる人
- 2 自ら学び続ける人
- 3 できることに気付き、進んで取り組める人
- 4 心豊かで健やかな人

今年度の取り組み－主体的に思考する力と自ら考え行動する力の育成－

〔評価基準〕 A：良い B：やや良い C：やや不十分 D：不十分

〔評価者〕 保護者：6名 教職員等：9名 (回答率100%)

※評価：【(保護者の評価)・(教職員の評価)】

I-1 自立と社会参加に向けた指導の充実

- 1 実態に応じたことばの指導を充実させ、人とかわり合うためのコミュニケーション能力を育成します。【B・B】
- 2 保護者及び関係機関との連携の際には、必ず「個別的教育支援計画」を活用し、指導支援の経過や合理的配慮を確認し、切れ目のない指導・支援をします。【A・B】
- 3 交流及び共同学習の一層の充実を図り、交流校及び交流保育園と合理的配慮を共有することで幼児児童同士が相互理解を深めて、主体的にかかわり合えるように支援します。

【B・B】

ことばの指導を充実させ、コミュニケーション能力を育成させること、及び教師の交流及び共同学習の項目においてC評価が散見された。ことばの指導について全教職員で見直し及び再確認をする機会を作り、さらには、交流及び共同学習について草野小学校とも再確認を行いたい。

I-2 主体的に思考する力と豊かな心の育成

- 1 幼児児童一人一人が主体的に思考し、学習に取り組む力を育成します。【A・B】
- 2 積極的に移動図書館から本を借り、読書活動を推進し、豊かな心を育てます。【B・B】
- 3 体験的活動を積極的に取り入れ、体験したことを「読む」「書く」「話す」「書く」等のことばの学習を通して、幼児児童が自ら考え、行動できるような主体性や意欲を育成します。【B・B】

今年度も個別の指導計画の作成や改善のためにケース会議を実施し、全職員で共通理解を行った。新学習指導要領の完全実施に向けて研修会を開催し、令和2年度の教育課程の見直しをするなどの準備を行った。

I-3 一人一人の実態を踏まえた言語力の育成

- 1 教員は聴覚活用や多様なコミュニケーション能力の向上を図るため、専門研修や実技研修を行い、全職員が専門性の向上を図ります。【A・A】
- 2 聴覚補償、情報保障機器、手話や指文字の適切な活用ができるよう教員の研修を行います。【B・B】
- 3 外部の専門家を招聘し、教員自ら課題意識を持って、授業研究会を実施し、授業力の向上を目指します。【A・B】

校内研修や外部の専門家を招聘しての研修については、比較的保護者の評価が高く、教員の評価は低めであった。研修部、地域支援センター、教務部と連携し、研修の目的や内容を精査しながら取り組むことができたものの、教員の専門性を高めようとする意欲が高い。保護者への啓発だけではなく、関係機関や地域への啓発の意味もこめて、校内での研修の取組についても、ホームページ等で知らせ、授業で還元できるようにしていく。

II 安全で安心な学校づくり

- 1 教育活動が安全な環境で行われるように、安全点検等を実施し、幼児児童の安全と安心の確保に努めます。【A・A】
- 2 食育の推進と安全で楽しい学校給食の充実を図ります。【B・B】
- 3 特別活動や道徳教育において、いじめに対する指導を行い、教職員が組織として予防的な対応をこころがけます。【B・B】
- 4 災害発生時の安全に対する意識を持たせるため、防災教育や放射線教育の充実を図ります。【B・B】

毎月の安全点検により、破損等の発見時は速やかに報告をし、管理職や係が速やかに対応・修繕をしている。食育をはじめ保健指導については、保健部を中心に積極的に行うことができた。いじめについては、アンケートを実施したり、児童が教師と話しをする期間を設けたりすることでいじめの未然防止に努めることができた。

III センターの機能の充実

- 1 地域の関係機関や保健師と連携し、0歳からの乳幼児教育相談を行います。【B・B】
- 2 教育事務所や市町村教育委員会、近隣の特別支援学校と連携し、幼稚園や保育所、学校等に在籍する聴覚障がいのある子どもへの支援を行います。【B・B】
- 3 地域における聴覚障がい教育の専門機関として学習会や研修会を開催し地域に発信・提供します。【B・B】

いわき地区保健センター、双葉郡8町村の教育委員会訪問など地域への啓発活動を実施した。1月末現在、センター的機能を発揮した支援件数は、延べ31件、来校相談支援件数は103件(延べ168件)実施できた。保護者や聴覚障がい者を育てる両親向けの学習会や研修会を実施したが、発信の努力を継続していきたい。

